

文教大学情報学部 社会調査 研究報告

原発再稼働について

2013年2月1日

情報学部広報学科

遠藤 彩加

目次

第1章	調査研究の概要	
1.1	調査研究の目的と背景	2
1.2	調査に関連する状況	2
1.3	調査研究の方法	5
1.4	成果の概要	7
第2章	調査研究の成果	
2.1	調査回答者の概要	9
2.2	原発再稼働賛否とその要因	10
2.3	今後の原発の考え方	13
2.4	東日本大震災と原発	15
第3章	まとめと今後の課題	
3.1	まとめ	17
3.2	今後の課題	18
参考文献		18
単純集計結果		19

第一章 調査研究の概要

1.1 調査研究の目的と背景

「原発再稼働について」

2011年3月11日。東日本大震災により多くの災害が起こった。その中でも今回「原発」を取り上げ、原発再稼働に関する大学生の意識調査を行いたい。

原発は有力な発電法であり、原子力発電以外にも火力、水力、地熱、風力など他にも発電方法はあるが、原発が1番効率が良い。しかしその原発の再稼働について今大きな問題となっている。

今年夏、世論の反対を押し切り政府は関西電力の大飯原発の3、4号機を再稼働させた。再稼働決定までに関してはたくさんの討論があり、政府や東電の出す安全基準や説明不足から世論では反対の意見がほとんどだった。再稼働して今後災害が起こったとき安全であるという保証はない。再稼働したところで使用済み核燃料の廃棄場所の問題などメリットは少ない。今回の福島原発事故により放射能の危険性から、未だに故郷へ帰れない人もたくさんいる。

20日午前0時付で福島原発の1～4号機が廃止され、約281万kwの電気がなくなり、夏の電気不足が予想された。しかし「原発ゼロ」の段階で関西電力の供給力は2500万キロワット以上。そこに大飯原発3、4号機の計236万キロワットと他電力会社から融通可能な分などを加え、3000万キロワット以上に達する。夏の使用量のピークは8月3日の2682万キロワット。大飯原発3、4号機分を差し引いても、数字の上ではかなりの余裕がある。しかし電力不足だからと、11月から全社で電気料金値上げが決定した。「節電の夏」で乗りきった今年。本当に再稼働は必要なのだろうか。今後原発はどうなっていくのか。また再稼働賛否によってどのように意見が違ってくるのかも調査したい。

1.2 調査に関する状況

(1) 東日本大震災と原発

2011年3月11日。忘れもしないあの日、私たちの生活はがらりと変わった。地震による津波や揺れの被害はたくさんの死傷者と多くの建物に大きな傷跡を残した。私は震災当時たまたま高校にいたのだが、あんなにも恐怖を覚えたことはなかった。高校にいたせいもあり、街や自分の家の被害がわからなかったが、体育館へ皆非難すると、後からやってくる非難してきた街の人や、暗くなってもつかない電気、流れないトイレ。そういう光景を目の当たりにして改めて普通の地震じゃないと感じた。実家のほうも何日も停電、断水が続き、スーパーにいても品薄で何も買

えなかったことも…。震災後も計画停電により不便な思いもしたことだろう。

その大きな傷を残された一つとして福島原発が挙げられるのではないだろうか。地震により福島第一原発の6基のうち1~3号機の全電源が喪失。原子炉の冷却ができなくなり、メルトダウン（炉心溶融）が起き、放射性物質が周囲に拡散した。この放射性物質はさまざまな農作物などに被害をもたらし、基準値を超える値が検出され、出荷制限を余儀なくされた農家もたくさんある。事故の国際評価尺度はチェルノブイリ原発事故と同じ最悪のレベル7とまでされた。東日本大震災から5日後には総理から国民へ、「福島第一原子力発電所より20キロメートル以内より全員退避。30キロメートル以内は屋内待機。福島第二原子力発電所については10キロメートル以内より退避。」とメッセージが発表された。それにより福島県に残ると決めた人たちと他県に避難していった人たちに分かれていった。TVの報道では、福島に残っている小学生や中学生が放射能の危険性によりグラウンドで遊べなくなったり、マスクをして登校したり…。そんな姿を毎日のように見ていた。避難区域が解除され、安全がわかったとしても福島に戻ってきた人は少なかった。震災当初はこのように福島原発の状況の報道が多く、この福島原発事故により人々はより原発に対する意識が高くなったのではないだろうか。また節電をするようになったり、放射能を今まで以上に気にするようになったり、防災にも気を使うようになったりなど、今後の私たちの生活に大きく影響していった。

それから2年目を迎える今、最近の動向として「原発再稼働」についての報道が多くなっている。7月に入り大飯原発の再稼働が決まったが、それに反対する人たちによるデモが官邸前で行われている。このデモは主にtwitterやfacebookなどSNSサイトから参加者を募り、2万人弱の人を集めた。デモは現在でも毎週金曜日に行われ、現在参加者は約20万人にも上っている。なぜ人々はそこまで脱原発を目指すのだろうか。

1番の問題は放射能による健康面の危険性ではないだろうか。放射能による被害として、体の外から放射能を浴びる外部被曝と呼吸や飲食などによって放射性物質が体の中に入ることによって被曝する内部被曝がある。どちらとも少量の被曝では急性障害は出ないが、数年以上たつてがんとして出てくることもある。このような放射能の被害により今まで気にも留めなかった各地の空間線量率、風向き、天気を気にし、農畜産物や魚介類の放射性物質の汚染状況までも気にしなくてはいけなくなってしまった。こんな風に生活を変えてしまった原発は再稼働すべきなのだろうか。

(2) 原発再稼働の賛否を分ける要因とは

賛否を分ける要因はたくさんあると思う。まずは地理的問題。原発のある町では交付金の問題

や雇用問題などにより賛成が多いのも事実だが、反対意見の方が多いのではないだろうか。例えば大飯原発のあるおおい町の隣にある小浜市では、原発は肉眼で確認できるくらい近くにあるのに、交付金のもらえる額は少ないし、政府からの安全についての説明会もない。政府への不安はますます増えると同時にやはり健康面などの影響を心配する人が多いため反対意見が多くなっていく。逆に原発から遠いところに住んでいる人は原発再稼働に賛成が多いのではないだろうか。もし原発事故が起こったとしても直接的な被害はないし、経済的に困ることもない。次に先ほども言った通り、政府に対する不安に関して。NHK 放送文化研究所の調べによると、国の原発に関する安全管理について「あまり信頼していない」人が 51%と最も多く、「まったく信頼していない」人の 25%を合わせると 76%と 4人に3人が信頼していないことになる。これに対し、「ある程度信頼している」人は 23%、「大いに信頼している」人は 1%しかいない。この結果から見ても政府の信用ははっきり言ってないと断言できるだろう。この結果は大いに賛否に大きく関わってくるだろう。

その次に原発に対する関心。実際大学生はどれくらい原発に対して関心があるのだろうか。関心があれば放射能が身体に来ず被害も十分わかっているため、反対意見が多くなる。しかし関心がなければ自分の身の回りの便利さを考え、賛成意見が多くなると思う。またこれはニュースや新聞などメディア視聴にも関連してくると考えられる。関心がある人は原発限りの話じゃなくてもニュースや新聞で情報を集めようとするが、関心のない人は自分から情報を集めようとしない。この原発問題に関する情報の格差も賛否を分ける要因の大きな 1つと言えるだろう。だが最近だとテレビや新聞から情報を得るといより、インターネットや SNS サイトから知る人が多くなってきた。マイナビの調べによると、インターネットを情報源としている人が 85.9% (マイナビ会員の中で)、テレビが 7.9%、新聞が 4.7%とインターネットが多くなっている。これも賛否を分ける要因になるのだろうか。

そして東日本大震災による被害の有無。私は震災当時実家にいたのだが幸いにも停電・断水が 3 日くらい続いたくらいで、計画停電の対象地域からも外れていたのであまり不便はなかった。だが隣の旭市では津波により千葉県で一番死者が出ってしまった。震災から何か月か経った後母と旭市の海の方を見に行ったが、きれいに片づけられていたものの、たくさんのがらくたが海岸に集められ、土台しか残っていない家もあった。こういうのを見ると改めて震災の大きさと怖さに気付かされ、原発問題も他人ごとではないと思われた。被害のあった人や知人や家族が被害にあった人は東日本大震災の怖さを実際に感じたと思うが、特になかった人は間接的にしか知ることができない。この危機感の持ち方も賛否に関わってくるだろう。

最後に原発の既存の問題。使用済み燃料、テロ、地震や津波による被害、代替エネルギーの問題など震災前から原発はたくさん抱えていた。今回震災があったからというものこれらの問題も見直さなければならないのではないだろうか。

1.3 調査研究の方法

(1) 進捗経緯

5～7月 調査テーマ討論・決定

8～10月 最終討論・調査票作成

10月 調査票完成・学内での調査実施

11月 単純集計結果報告

12月 報告書作成

(2) 調査の概要

a. 調査の意図・仮説

- ・震災後、原発に対する意識が高くなった。
- ・放射能、今後の地震災害など原発に対して不安を持っている人が多い。
- ・特に放射能漏れ、健康被害に対する不安が大きい。
- ・政府、東電に対して不安に思っている人が多い。
- ・今年電気不足と感じた人は少ない。
- ・原発問題による政府への信頼はかなり低い。
- ・再稼働に賛成の人は少ない。
- ・節電をするようになった人は多い。
- ・メディアを多く利用している人はたくさんの情報を手に入れているので、反対が多い。
- ・原発は廃止すべきだという意見が多い

b. 調査対象者と方法

調査対象：文教大学生

調査方法：紙面によるアンケートを授業内に実施

c. 主な質問項目

- ・ 震災での被害状況
- ・ 震災前後の原発に対する意識の変化
- ・ 震災後の生活の変化
- ・ 原発に対する不安
- ・ 政府に対する不安
- ・ 東電に対する不安
- ・ 今年電力不足を感じたか
- ・ 脱原発デモについてどう思うか
- ・ 再稼働に賛成か
- ・ 原発に興味があるか
- ・ 政府を信用しているか
- ・ 便利より安全か
- ・ 節電しているか、電力不足は困るか
- ・ 近くに原発はあるか
- ・ 原発問題について自分でどのくらい調べたか
- ・ ニュース、新聞、雑誌、ネット、SNS サイトの利用率
- ・ 今後原発はどうしていったら良いか

d. 依頼数と回答数

配布数：125 枚（平和学：37 枚、メディア論：88 枚）

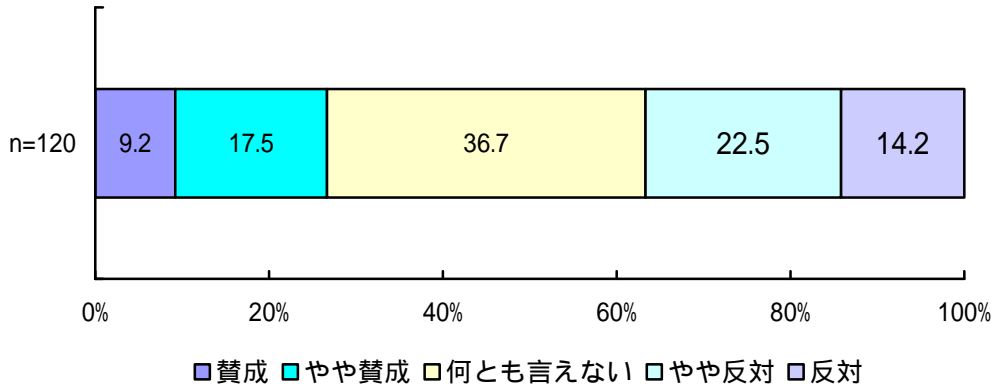
回収数：121 枚（平和学：37 枚、メディア論：84 枚）

有効回収数：120 枚（平和学：37 枚、メディア論：83 枚）

1.4 成果の概要

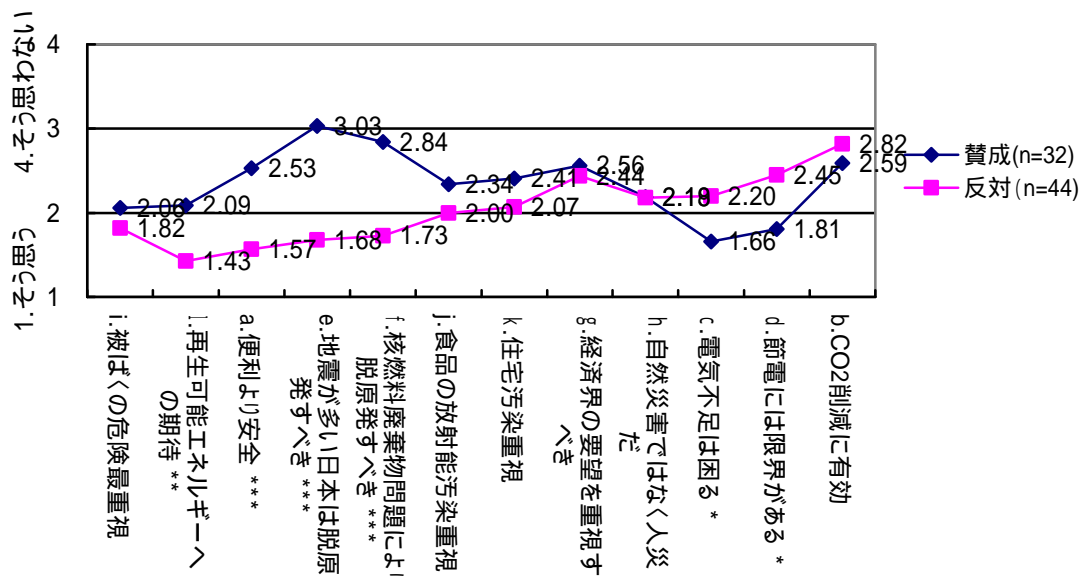
(1) 主な成果

図 1 - 4 - 1 原発再稼働の賛否



あなたは原発再稼働についてどう思いますかという質問に対して、約 27%の人が「賛成・やや賛成」と回答し、約 37%の人が「反対・やや反対」と回答した。全体的に賛成よりも反対が多いことが分かったが、「何とも言えない」と回答した人が約 37%と最も多かった。学生に対して再稼働の賛否を聞いたのは難しく、賛成と反対で分けたとき顕著な差は見られなかった。再稼働の問題は一概に賛成・反対とは言えないと考えられる。

図1-4-2 原発の意見の平均値



全般には、再稼働反対グループは賛成グループよりも下側に位置している。特に顕著さが見られるのは「再生可能エネルギーへの期待」「便利より安全」「原発が多い日本は脱原発すべき」「核燃料廃棄物問題により脱原発すべき」である。これらに関して再稼働反対グループは慎重に考えている傾向だった。また全体的にも再稼働反対グループの考えは慎重である。しかし再稼働賛成グループに関して「電気不足は困る」「節電には限界がある」「CO2 削減に有効」のみ下に位置しており、賛成グループは安全より便利を選び、電気のために再稼働はやむをえないととらえていると考えられる。

(2) その他の成果

- ・震災後原発に対する意識が変わった人は95%だった。
- ・今年電気不足で困ったことはあるかという質問に対して困ったことがないと回答した人は45%と半数近くいた。
- ・政府、東京電力に対する不安で「原発に関する情報提供」が「とても不安」と回答した人が政府、東京電力ともに1番多かった。
- ・今後に関して新エネルギーや再生可能エネルギーへの期待値が大きいことが分かった。

第2章 調査研究の成果

2.1 調査回答者の概要

調査対象者は、文教大学湘南校舎の学生120名で、「平和学」と「メディア論」で紙面によるアンケートを実施した。

なお回答標本は無作為抽出で作成していないために、母集団から見て偏りを感じる可能性がある。そこで回答者の分布を、表2-1-1から表2-1-2で確認しておく。表2-1-1の性別では男性が45.0%（54名）、女性が54.2%（65名）とやや半々だが、若干女性のほうが多い。

表2-1-2の学年では1年生65.0%（78名）、2年生0.8%（1名）、3年生30.0%（36名）、4年生4.2%（5名）と1年生、3年生の割合が高い。これらの偏りは回答者全体の分布にはそれなりの影響を与える可能性があり、解釈時には注意が必要である。しかしクロス集計やグループ平均などの層化を行った集計では、影響は限定すると考えられる。

表2-1-1 性別

	男性	女性	無回答	計
回答者	45.0% (54名)	54.2% (65名)	0.8% (1名)	100.0% (120名)
湘南キャンパス 学生	50.4% (1745名)	49.6% (1714名)	- (-)	100.0% (3459名)

表2-1-2 学年

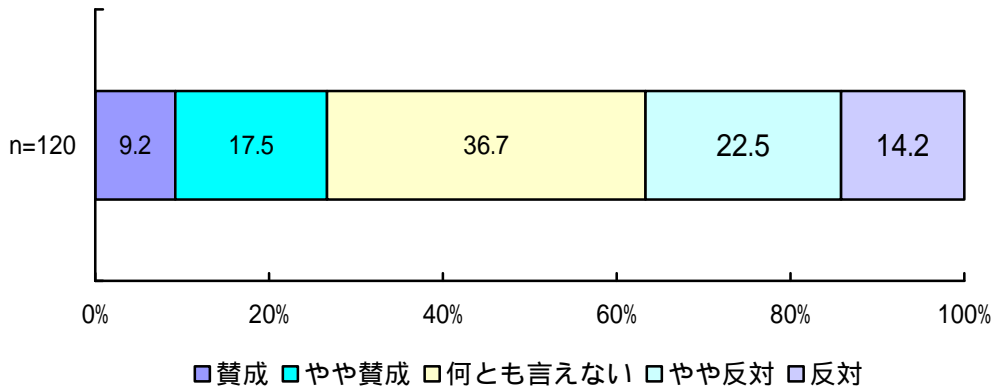
	1年生	2年生	3年生	4年生	計
回答者	65.0% (78名)	0.8人 (1名)	30.0名 (36名)	4.2% (5名)	100.0% (120名)
湘南キャンパス 学生	26.0% (899名)	23.9% (828名)	25.8% (891名)	24.3% (841名)	100.0% (3459名)

(注) 母集団は湘南キャンパス2012.10末時点である。

2.2 原発再稼働賛否とその要因

(1) 原発再稼働の賛否

図 2-2-1 原発再稼働の賛否

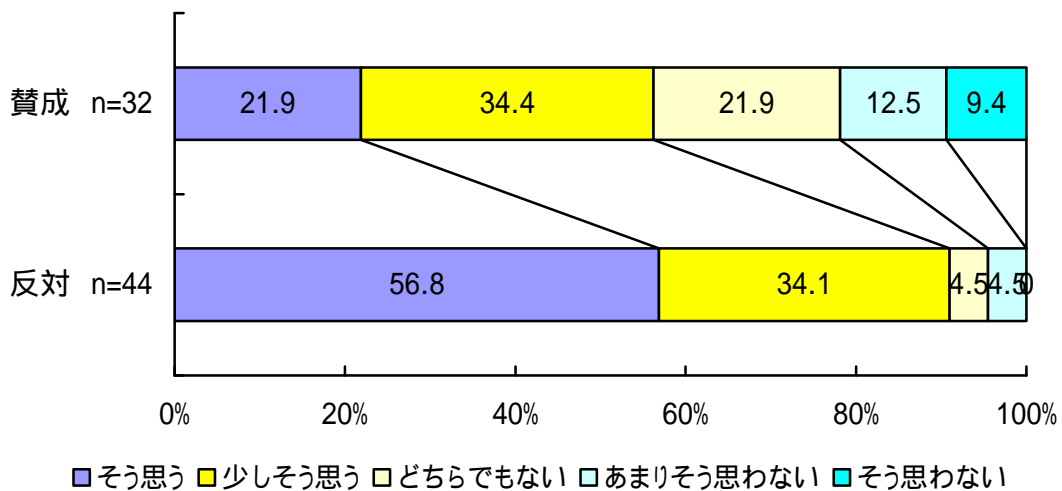


あなたは原発再稼働についてどう思いますかという質問に対して、約 27%の人が「賛成・やや賛成」と回答し、約 37%の人が「反対・やや反対」と回答した。全体的に賛成よりも反対が多いことが分かったが、「何とも言えない」と回答した人が約 37%と最も多かった。

ここで賛成・やや賛成と回答した人を賛成グループとし、反対・やや反対と回答した人を反対グループとする。

(2) 便利より安全か

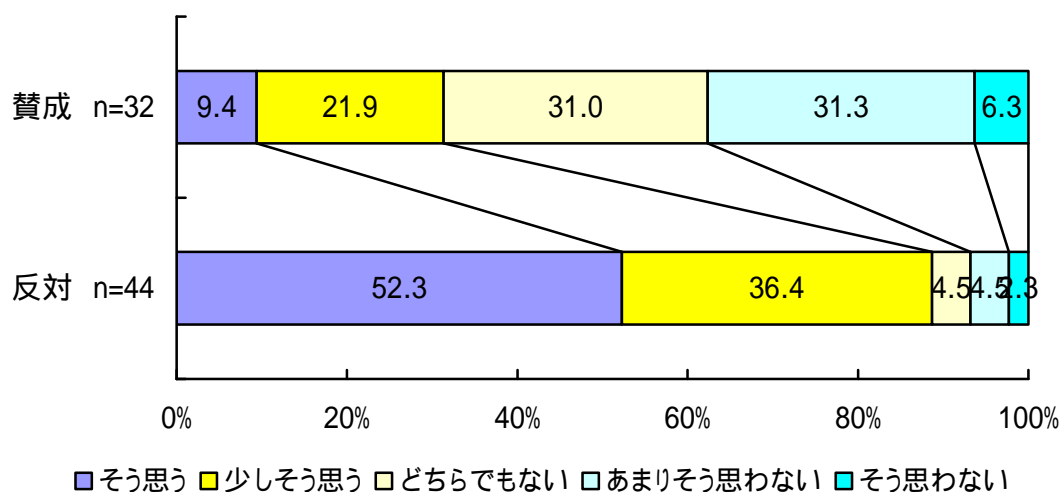
図 2-2-2 再稼働賛否による安全の優先(x=0.003)



原発再稼働に賛成グループと反対グループごとに、便利より安全を重視するかの集計を行った。再稼働反対グループは「そう思う」と回答した人が約57%と最も多く、半数以上が回答した。再稼働賛成グループでは「少しそう思う」と回答した人が約34%と最も多かったが、再稼働反対グループと比べて「あまりそう思わない・そう思わない」と回答した人が約22%と多かった。再稼働反対派の方が安全を重視していると考えられる。

(3) 地震が多い日本は脱原発すべきか

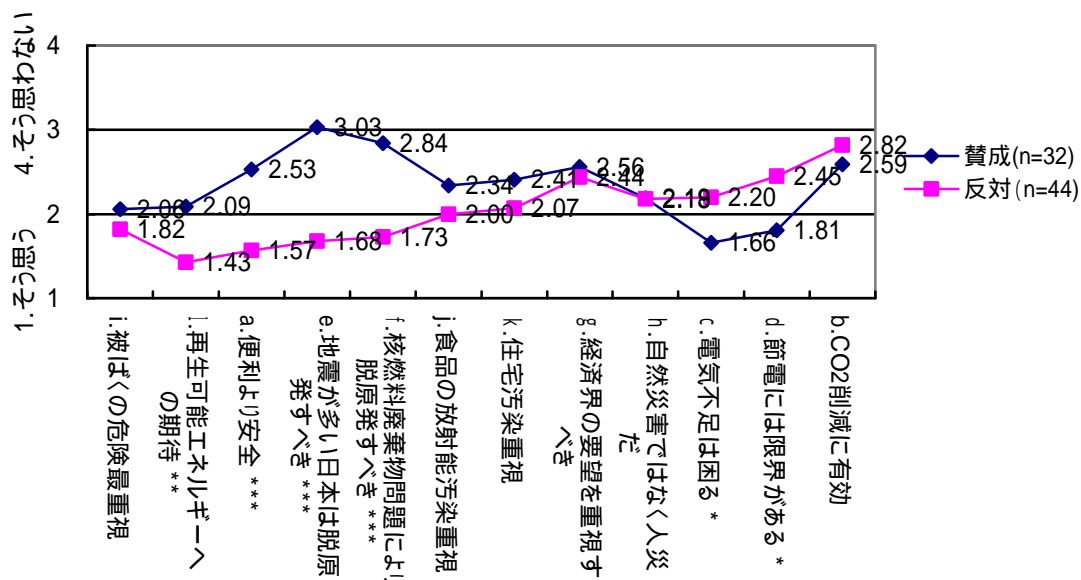
図2-2-3 再稼働賛否と地震が多い日本の脱原発(x=0.000)



原発再稼働に賛成グループと反対グループごとに、地震の多い日本は脱原発すべきかの集計を行った。再稼働反対グループは「そう思う」と回答した人が約52%と最も多かった。再稼働反対では「あまりそう思わない」と回答した人が約30%と最も多かった。以上から圧倒的に再稼働反対グループの方が地震が多いことに対する意識が高く、賛成グループの方が低いと考えられる。

(4) 原発に対する意見の平均値

図2-2-4 原発の意見の平均値



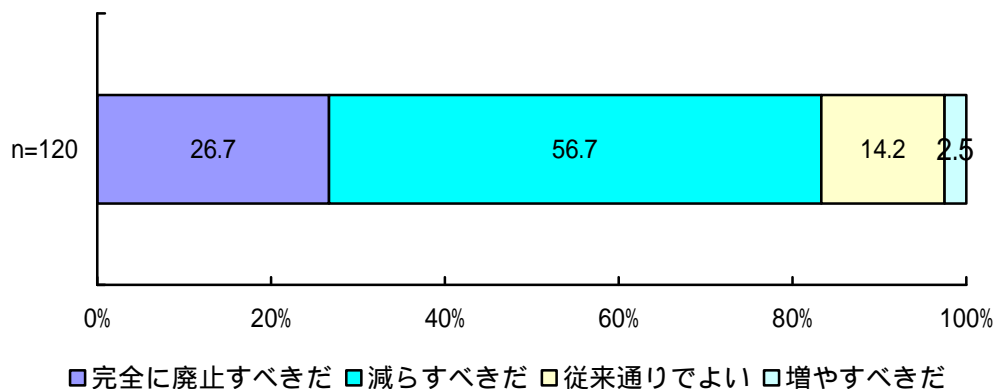
再稼働反対グループは全体的に原発に対して慎重な考え方で、特に諸問題による脱原発に対して高い意識を持っている。また「再生可能エネルギーへの期待」がすごく高い。

再稼働賛成グループは全体的に反対グループよりも上に位置しており、電気不足になるくらいなら他の問題は仕方ないという気持ちが高いのではないかと考えられる。また「電気不足は困る」「節電には限界がある」「CO2削減に有効」のみ反対グループより下に位置しており、これからも電気不足に対する意識が高いことが伺える。

2.3 今後の原発の考え方

(1) 今後の原発の意向

図2-3-1 今後の原発の意向

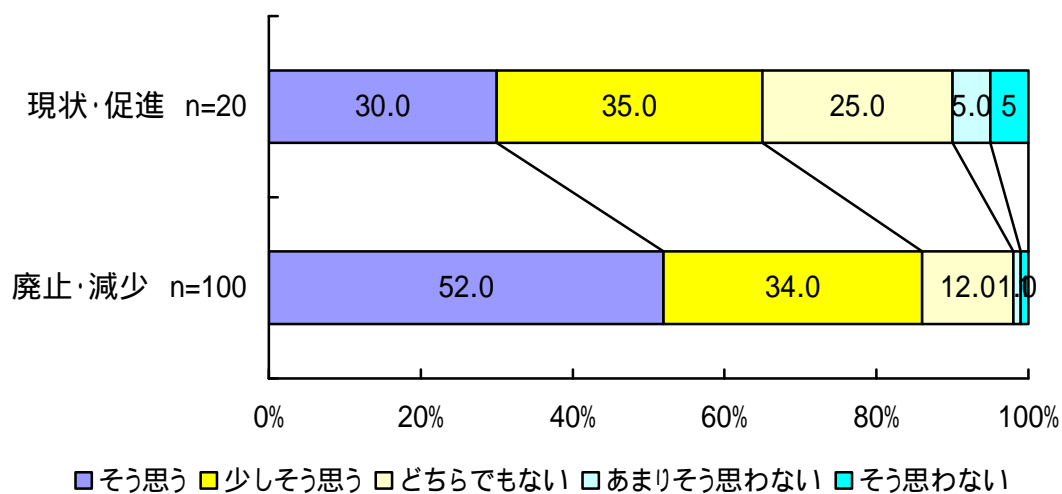


今後原発はどのようにすべきだと思いますかという質問に対して、「減らすべきだ」と回答した人が約57%と最も多く、次いで「完全に廃止すべきだ」と回答した人が約27%と多かった。やはり全体的に原発はなくすべきだという意見が圧倒的に多かった。

ここで完全に廃止すべきだ・減らすべきだと回答した人を原発減少派、従来通りでよい・増やすべきだと回答した人を原発現状促進派とする。

(2) 今後の原発の意向による再生可能エネルギーへの期待

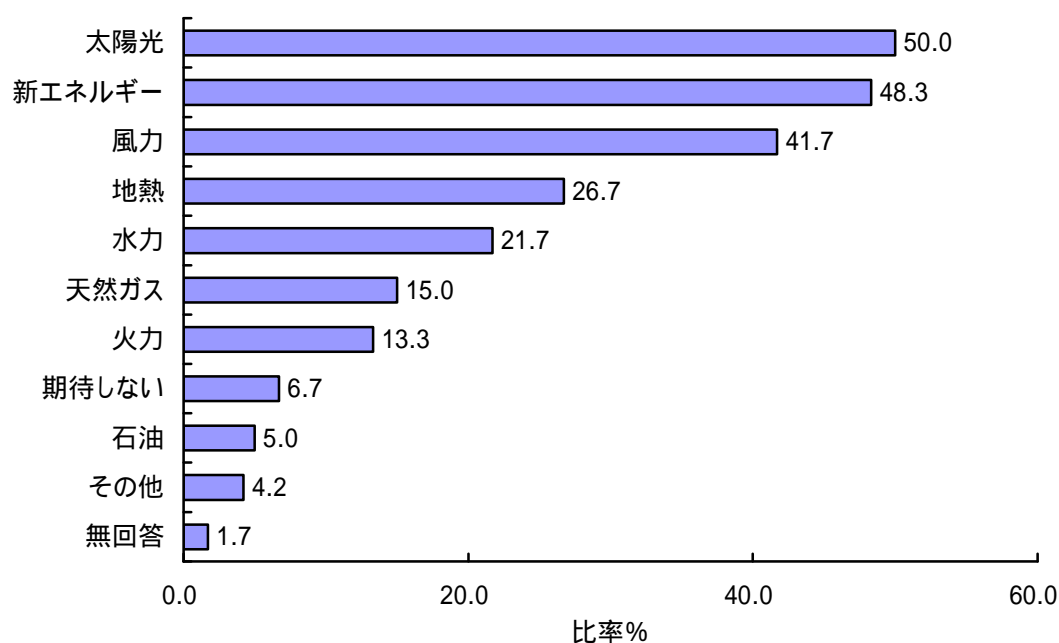
図2-3-2 今後の原発意向による再生可能エネルギーへの期待



原発現状・促進派と廃止・減少派のグループごとに再生可能エネルギーへの期待があるかの集計を行った。現状・促進派は少しそう思うが35%、廃止・減少派はそう思うが52%と1番多く、全体的に見てもどちらのグループも再生可能エネルギーには期待をしていると考えられる。しかし現状・促進派ではそう思う・少し思う以外の回答を合わせて35%と約4割の人はあまり期待はしていない。

(3) 期待するエネルギー

図 2-3-3 期待するエネルギー(n=120)

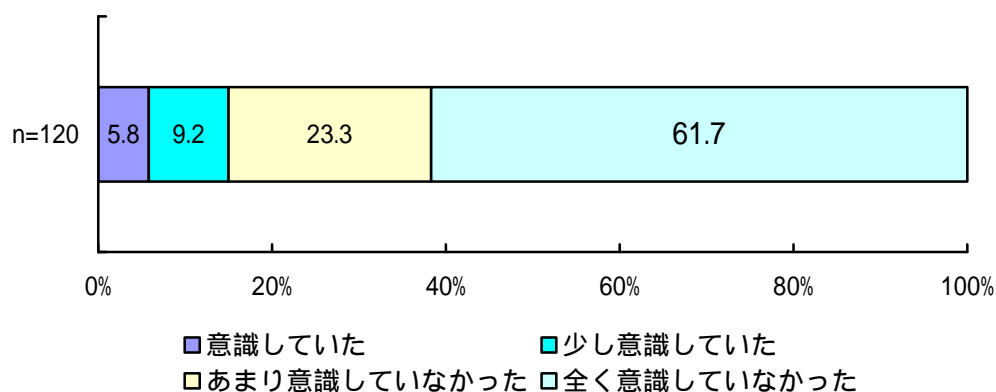


今後あなたはどのエネルギーに期待しますかという質問に対して、「太陽光」と回答したが50%と最も多く、次いで「新エネルギー」が約48%、「風力」が約42%、「地熱」が約27%と自然エネルギーに期待が多いということが分かった。

2.4 東日本大震災と原発

(1) 震災前の原発に対する意識

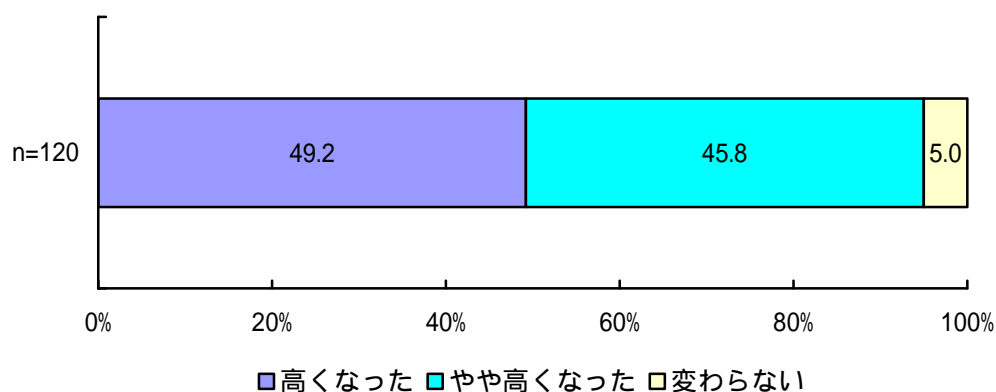
図 2 - 4 - 1 震災前の原発への意識



震災前、原発の危険性を意識していましたかという質問に対して、「全く意識していなかった」と回答した人が約 62%と最も多く、次いで「あまり意識していなかった」と回答した人が約 23% だった。つまり約 8 割の人が原発の危険性に対して意識をしていなかったと考えられる。

(2) 震災後の原発に対する意識

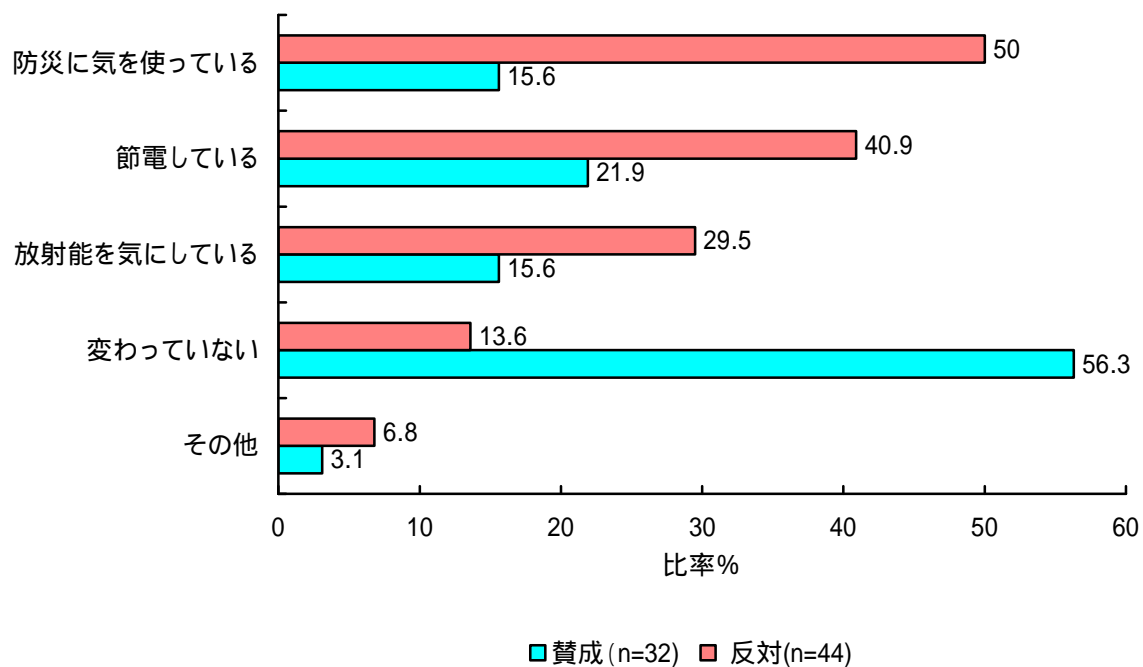
図 2 - 4 - 2 震災後の原発への意識



震災後、原発の危険性に対する意識は高くなりましたかという質問に、約 95%の人が高くなったと回答した。やはり東日本大震災は人々の意識を変えた大きな出来事だったと考えられる。

(3) 原発再稼働賛否と生活変化

図2-4-3 再稼働賛否と生活変化(n=120)



原発再稼働に賛成グループと反対グループごとに、震災後の生活変化の集計を行った。再稼働反対グループは「防災に気を使っている」と回答した人が50%と最も多く、次いで「節電している」と回答した人が約41%と多かった。再稼働賛成グループは「変わっていない」と回答した人が約57%と他の選択肢に比べ圧倒的に多かった。

第3章 まとめと今後の課題

3.1 まとめ

今回の調査では原発再稼働についての賛否とその要因を導きだせればと思っていたが、原発再稼働の賛否を文教大学湘南キャンパスの学生に質問した際、「賛成」「反対」という意見よりも「どちらでもない」という回答が1番多く驚いた。東日本大震災後、原発に関する意識は以前よりも高まったものの、今後の生活を考えていくとはっきり賛否を決めるのは難しい問題なのかもしれない。また原発に対する関心度（どれくらい原発について調べたか）に対して、大学生はあまり関心がないと予想していたが、半数以上の人から自ら原発のことを知ろうとしていた。東日本大震災による原発事故は学生に賛否、意見関わらず、大きな影響を与えていたことがわかった。

再稼働賛成・反対派によってだいぶ意見は異なっていた。賛成派は電気が不足することを不安に思っているようだ。原発に対する意見では地震・核燃料廃棄物問題による脱原発に対して反対派と顕著な差が見られた。便利より安全かという質問に対しても「そう思わない」と回答した人が多かった。原発は危険という認識はあるものの、電気のためには危険もつきものと捉えていると考えられる。この意見は生活にも現れていて、震災後の生活変化について集計を行ったところ賛成派は「変わっていない」と回答した人が半数以上もいた。

反対派は賛成派と真逆の意見である。いくら電気がたくさんあっても今回の原発事故のような問題があっては意味がないと思っている人が多いと考えられる。震災後の生活変化では「防災に気を使っている」「節電をしている」と回答した人が多く、反対派は今回の原発事故を深刻に受けとめて生活にまで影響している。

しかし全体的には賛否関わらず原発の廃止・減少派が多かった。賛否を決めるのは難しくてもやはり原発は少なくとも減らしていかなければならないとは感じているようだ。また再生可能エネルギーへの期待が高く、今後期待するエネルギーでは「太陽光」「新エネルギー」「風力」などが圧倒的に多かった。これらは設置にお金がかかるが、何事も安全に変えられるものはない。「30年代の原発稼働ゼロ」と甘いことを言っていないで今すぐ脱原発すべきでないだろうか。こういうことをしているから政府・東京電力への信頼がほとんどないのだと思う。原発に依存する日は終わった。原発にお金をかけ続けるのではなく、期待度の高い再生可能エネルギーを伸ばしていく方が効率はいいのではないだろうか。

今後この問題がどう進んでいくか想像がつかないが、少しでも早く脱原発をして原発に怯えることのない生活をしていきたい。

3.2 今後の課題

今回の調査の反省として原発再稼働問題は難しいテーマだったため知識が不足していた部分が多く、コンセプトに迷いが出てしまった。そのため仮説も意表を突くものが少なく、質の良い設問が少なかったように感じられた。また今回は男女で意見が異なるものが少なく、男女で意見が分かれる設問があればもっと充実した調査になったと思う。東日本大震災による原発問題は約2年前から始まったことなので当時と今を考慮すればよかった。次回ではもっと知識をつけ、現状分析をしっかり行ってから取り組んでいきたい。

資料1. 参考文献

- ・福井新聞オンライン

<http://www.fukushima.co.jp/localnews/politics/34252.html>

- ・朝日新聞オンライン

<http://www.asahi.com/special/08003/TKY201204230088.html>

- ・読売新聞オンライン

<http://www.yomiuri.co.jp/politics/news/20120427-0YT1T00015.htm>

- ・3.11 東日本大震災時系列まとめ

<http://lilylandscape.net/diary/815.html>

- ・マイナビ

<http://saponet.mynavi.jp/mynavieng/20120124.html>

- ・NHK 放送文化研究所

<http://www.nhk.or.jp/bunken/yoron/social/index.html>

- ・毎日 jp

<http://mainichi.jp/feature/news/20120903dde012040009000c.html>

- ・奥山俊宏「ルポ 東京電力原発危機1カ月」 朝日新聞出版 2011年
- ・伊藤公紀「これだけ知っていれば安心！放射能と原発の問題50」 日本評論社 2011年
- ・丸山重威編「これでいいのか 福島原発事故報道」 あけび書房 2011年

資料2.調査の単純集計

原発再稼働に関する調査 単純集計結果

情報学部広報学科 BOP11022 遠藤彩加

「社会調査」の授業のための調査です。無記名ですので率直にお答えください。

なおここでいう震災とは「東日本大震災」です。

問1. あなたは東日本大震災で何らかの被害はありましたか。(1つに) n = 120

1. はい 40.8	2. いいえ 問3へ 59.2
------------	-----------------

問2. あなたは今回の震災でどのような被害を受けましたか。(あてはまるすべてに) n = 49

1. 大きな怪我 0.0	2. 軽い怪我 4.1	3. 停電・断水 67.3
4. 揺れにより部屋が散乱した 51.0	5. 住宅損傷 14.3	6. その他 12.2

問3. 震災前、原発の危険性を意識していましたか。(1つに) n = 120

1. していた 5.8	2. 少ししていた 9.2
3. あまりしていなかった 23.3	4. まったくしていなかった 61.7

問4. 震災後、原発の危険性に対する意識は高くなりましたか。(1つに) n = 120

1. 高くなった 49.2	2. やや高くなった 45.8	3. 変わらない 5.0
---------------	-----------------	--------------

問5. 震災後、生活で変わったことはありますか。(あてはまるすべてに) n = 120

1. 節電している 35.8	2. 放射能を気にしている 20.8	3. 防災に気を使っている 37.5
4. 変わっていない 29.2	5. その他 3.3	

問6. 原発に対する不安の程度について教えてください。(それぞれ1つに) n = 120

	とても不安	少し不安	特に不安はない	無回答
a. 放射能漏れ	41.7	45.8	12.5	0
b. 放射能による健康被害	43.3	43.3	13.3	0
c. 今後の地震・災害による原発事故	58.3	36.7	5.0	0
d. 使用済み燃料の廃棄場所	36.7	49.2	13.3	0.8
e. テロによる原発災害の発生	22.5	43.3	34.2	0

問7. 原発問題における政府の対応を信用していますか。(1つに) n = 120

1. 信用している 0	2. 少し信用している 5.8
3. あまり信用していない 55.0	4. 信用していない 39.2

問8. 政府に対する不安の程度について教えてください。(それぞれ1つに) n = 120

	とても不安	少し不安	特に不安はない
a. 原発の安全管理	68.3	28.3	3.3
b. 原発に関する情報提供	71.7	26.7	1.7
c. 原発問題への対策	67.5	30.8	1.7

問9．原発問題における東京電力の対応を信用していますか。(1つに) n = 120

1. 信用している	0	2. 少し信用している	12.5
3. あまり信用していない	49.2	4. 信用していない	38.3

問10．東京電力に対する不安の程度について教えてください。(それぞれ1つに) n = 120

	とても不安	少し不安	特に不安はない
a. 原発の安全管理	62.5	35.8	1.7
b. 原発に関する情報提供	64.2	34.2	1.7
c. 原発問題への対策	57.5	40.8	1.7

問11．あなたは今年、電気不足により以下の項目で困ったことはありますか。

(あてはまるすべてに) n = 120

1. エアコンの設定温度	11.7	2. 節電	22.5	3. 電力料金値上げ	38.3
4. その他	0	5. 困ったことはない	45.0	4. 無回答	0.8

問12．あなたは脱原発デモについてどう思いますか。(1つに) n = 120

1. 賛成	10.0	2. やや賛成	19.2	3. なんとも言えない	58.3
4. やや反対	5.0	5. 反対	7.5		

問13．あなたは原発再稼働についてどう思いますか。(1つに) n = 120

1. 賛成	9.2	2. やや賛成	17.5	3. なんとも言えない	36.7
4. やや反対	22.5	5. 反対	14.2		

問14．以下の項目についてどう思いますか。(それぞれ1つに) n = 120

	そう思う	少しそう思う	どちらでもない	あまりそう思わない	そう思わない	無回答
a. 便利より安全を重視する	35.8	41.7	14.2	5.8	2.5	0
b. 原発はCO2削減に有効だ	13.3	31.7	34.2	18.3	2.5	0
c. 電気不足は困る	42.5	33.3	7.5	15.0	1.7	0
d. 節電には限界がある	32.5	40.0	8.3	14.2	5.0	0
e. 地震が多い日本では原発を止めるべきだ	24.2	34.2	26.7	12.5	2.5	0
f. 核燃料廃棄物の処理は困難であるため、原発は止めるべきだ	17.5	41.7	31.7	7.5	1.7	0
g. 電力への経済界の要望を重視するべきだ	20.0	30.0	33.3	12.5	3.3	0.8
h. 今回の原発事故は自然災害でなく人災だ	28.3	31.7	21.7	15.8	2.5	0
i. 被ばくの危険性を重視する	40.0	40.0	12.5	5.0	2.5	0
j. 食品の放射能汚染を重視する	33.3	35.0	21.7	5.0	5.0	0
k. 住宅環境の放射能汚染を重視する	30.0	39.2	20.8	6.7	3.3	0
l. 再生可能エネルギーの成長を期待すべきだ	48.3	34.2	14.2	1.7	1.7	0

問15. あなたの実家の近くに原発はありますか。(1つに) n = 120

- | | |
|--------------------|----------------|
| 1. 同じ県内にある 15.0 | 2. 隣の県にある 21.7 |
| 3. 隣の県の範囲にはない 42.5 | 4. わからない 20.8 |

問16. あなたは原発問題についてどのくらい自分で調べたことはありますか。(1つに) n = 120

- | | |
|-------------------|--------------------|
| 1. かなり調べた 7.5 | 2. 少し調べた 41.7 |
| 3. あまり調べていない 35.0 | 4. まったく調べていない 15.8 |

問17. 以下のメディアの利用状況を教えてください。(それぞれ1つに) n = 120

	よく利用する	少し利用する	どちらでもない	あまり利用しない	まったく利用しない
a. ニュース	53.3	36.7	1.7	7.5	0.8
b. 新聞	10.0	27.5	14.2	25.0	23.3
c. 雑誌・週刊誌	14.2	22.5	17.5	26.7	19.2
d. ネット	67.5	22.5	7.5	1.7	0.8
e. SNS サイト	45.8	21.7	7.5	12.5	12.5

問18. ネットは何を目的に使いますか。(あてはまるすべてに) n = 120

- | | | |
|------------------------|-------------------|----------------------|
| 1. ニュースをみるため 65.8 | 2. 娯楽のため 83.3 | 3. 通販サイトを利用するため 45.0 |
| 4. SNS サイトを利用するため 56.7 | 5. 調べものをするため 82.5 | 6. その他 7.5 |

問19. 政府の出す「30年代の原発稼働ゼロ」の目標についてどう思いますか。(1つに) n = 120

- | | | |
|----------------|-------------------|--------------------|
| 1. 妥当だと思う 33.3 | 2. 今すぐ脱原発すべき 23.3 | 3. 違う目標を立てるべき 41.7 |
| 4. 無回答 1.7 | | |

問20. 今後原発はどうするべきだと思いますか。(1つに) n = 120

- | | | | |
|-------------------|----------------|-----------------|---------------|
| 1. 完全に廃止すべきだ 26.7 | 2. 減らすべきだ 56.7 | 3. 従来通りでよい 14.2 | 4. 増やすべきだ 2.5 |
|-------------------|----------------|-----------------|---------------|

問21. 今後あなたはどのエネルギーに期待しますか。(あてはまるすべてに) n = 120

- | | | | | |
|---------------|-------------|----------------|------------|--------------|
| 1. 火力 13.3 | 2. 水力 21.7 | 3. 風力 41.7 | 4. 地熱 26.7 | 5. 天然ガス 15.0 |
| 6. 太陽光 50.0 | 7. 石油 5.0 | 8. 新エネルギー 48.3 | 9. その他 4.2 | |
| 10. 期待しない 6.7 | 11. 無回答 1.7 | | | |

F1. 性別(1つに) n = 120

- | | | |
|-----------|-----------|------------|
| 1. 男 45.0 | 2. 女 54.2 | 3. 無回答 0.8 |
|-----------|-----------|------------|

F2. 出身地(1つに) n = 120

- | | | | |
|------------|--------------|------------|------------|
| 1. 北海道 0.8 | 2. 東北 11.7 | 3. 中部 14.2 | 4. 関東 68.3 |
| 5. 近畿 1.7 | 6. 四国・中国 1.7 | 7. 九州・沖縄 0 | 8. 海外 1.7 |

F3. 出身地域の都市化の度合い(1つに) n = 120

- | | | | | |
|-------------|--------------|------------|------------|------------|
| 1. 大都市 12.5 | 2. 中小都市 45.8 | 3. 田舎 31.7 | 4. 超田舎 8.3 | 5. その他 1.7 |
|-------------|--------------|------------|------------|------------|

F4. 学年 (1つに) n = 120

1. 1年生	65.0	2. 2年生	0.8	3. 3年生	30.0	4. 4年生	4.2
--------	------	--------	-----	--------	------	--------	-----

F5. 学科 (1つに) n = 120

1. 広報	42.5	2. 経営情報	20.0	3. 情報システム	1.7	4. 国際理解	22.5
5. 国際観光	13.3	6. 健康栄養	0				

F6. 世帯状況 (1つに) n = 120

1. 実家暮らし	45.8	2. 一人暮らし	50.0	3. ルームシェア	0	4. 寮生活	1.7
5. その他	2.5						

調査は以上です。ご協力ありがとうございました。